

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 26 年 2 月 21 日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
一般社団法人 日本がん看護学会	
企画名	
市民公開講座「がんと診断されたその時から始まる緩和ケアーがんになっても、自分らしく、よりよく生きるために-」	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
①新潟日報 朝刊 「下越暮らしの情報 WEEKLY」 コーナーに広告掲載 (2 回, 2014 年 1 月 23 日・2 月 6 日)	
②日本がん看護学会会員へのチラシ送付 (学会誌送付時に封入)	
③新潟市役所ポスター掲示、公共施設へのポスター掲示、チラシを置く	
④市内病院外来での広報 (ポスター掲示、チラシ配布)	
⑤第 28 回日本がん看護学会学術集会ホームページへの掲載	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2014 年 2 月 8 日
実施場所	新潟市 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター2 階スノーホール
参加人数	590 名
具体的な実施内容:	
講師: 聖路加国際病院緩和ケア科 部長 林 章敏氏	
講演内容: 緩和医療学会による緩和医療の定義、終末期医療としての緩和ケアからシームレスなケアへ、がん治療と並行して行うパラレルケア	
早期からの緩和ケアが精神的ストレスに及ぼす効果	
早期から緩和ケアが関わった患者さんの事例、痛みの緩和、医療用麻薬への誤解	
効果について(アンケートの結果など)	
回収枚数 319 枚 (参加者の 54%が回答)	
40 代、50 代、60 代の回答者が全体の 80%を占めていた。ポスター・チラシ・新聞で情報を得ていた。緩和ケアは、がんの初期からがん治療と並行して受ける治療ということについて、理解できましたかの間に 95%ができたと回答した。緩和ケアについての考えを改めさせられたとの自由記述があった。公開講座の意図は十分達成できたと評価できる。	
その他報告	
なし	

※公式ホームページ (緩和ケア.net) への掲載について

(掲載してもよい) ・ 掲載しないでほしい)

◆チラシ



◆当日の様子

